

八 幡 の 風

修学旅行を終えて

6月7日（水）～9日（金）の3日間、3年生は広島・大阪への修学旅行に行きました。初日は広島。平和公園で千羽鶴の献納などの平和セレモニーの後、原爆資料館の見学、講師さん



による講話、語り部さんとの記念碑の見学などを行いました。生徒たちは社会科や総合的な学習の時間で事前学習をしていますが、やはり実際の建物や資料を見たり、実体験に基づきお話を聴かせていただ

いたりすることで、「戦争」「原爆」といったものをよりリアルに捉えたり、「平和」という言葉の重みを感じたりしている様子が伺えました。

本物がもつ力はすごいし、生徒たちの感性も鋭敏で豊かです。2日目の大和ミュージアムでの見学も含め、生徒たちは、きっと、広島で体験したこと、感じたことを文化祭など今後の学習の場で活かしてくれることでしょう。

2日目の午後は宮島、厳島神社での観光です。世界遺産にもなっている厳島神社。サミットの影響もあってか生徒の関心も高く「来てみたかった」と言いながら、興味深げに朱塗りの回廊を巡っていました。宮島では雨に降られましたが、生徒たちはしっかりと散策や買い物を楽しんでいました。



そして最終日はお楽しみのUSJ。当初は雨が心配されていましたが、当日は暑いくらいの好天に恵まれ、生徒たちは時間いっぱいまで楽しむことができました。午後3時の集合時刻に大きく遅れることもなく、無事にすべての行程を終えることができました。

3日間を通して、実行委員や班長の活躍はもちろん、広電でお年寄りに座席を譲ったり、エレベーターで家族連れに順番を譲ったりするなど、生徒たちの活躍や社会性を感じることができた修学旅行でした。



ルールを守ること・助け合うこと

修学旅行前に生徒のみなさんにお話した2つのことについて書いておきます。

《ルールを守ること》

感心したことが3つあります。

まず素晴らしかったのは、修学旅行のたくさんのルールをみんなが守ろうと努めていたことです。修学旅行は集団行動を伴う特殊な旅行です。参加者全員が無事に3日間を過ごすことができたのは、その基本的な姿勢があったからだと思います。

次に感心したのは、ルール違反の指導を受けたときの態度です。残念ながらルール違反が0だったわけではありませんでした。でもルール違反で指導を受けたとき、きちんと非を認めて正直に自分の反省や思いを話してくれる姿が見られました。ルール違反自体は褒められたことではありませんが、潔く反省できる態度に人としての値打ちを感じました。

さらにもう一つ感心したことがあります。修学旅行のルールについて、変更や改善ができないかと教員に交渉する姿が見られたことです。決められたルールは守るのが基本ですが、ルールに疑問を感じたとき、勝手に違反するのではなく、理由を述べて改善を求めようとする姿に感心しました。自分たちの生活をよりよくするために働きかける姿勢は、これからも持ち続けてほしいし、さらに育てたい力だと思います。また、改善要求が通らなかった場合でも、それを受け入れ、ルールの範囲内で修学旅行を楽しもうとする姿も立派だったと思います。

世の中には様々なルールがあります。中には窮屈に感じるルールもあるかもしれませんが、私たちの生活がルールに守られているのも事実です。修学旅行を通して、ルールを守ることの大切さや難しさを感じたり、ルールを守ることの意味に気づいたり、逆にルールの内容に疑問をもったりしたことは大切な経験です。修学旅行の振り返りをする際、単にルールを守れたかどうかだけでなく、社会の中のルールの意味や、ルールと自分との関わりについて考える機会になってくれればと願っています。

《助け合うこと》

今回の修学旅行では、車いすや松葉づえが必要な仲間がいましたが、常に誰かが車いすの補助をし、荷物や松葉づえを運んでくれていました。

また、誰かが落ち込んだり、イライラしたり、気持ちが不安定になると、仲間がそっと寄り添い、話を聴き、いつの間にかリセットしてくれていました。

さらに集合や点呼で遅れたり、はぐれたりすることがないように、互いに声を掛け合って、時間や場所を確認していました。段取りが急に変更になった場合でも、実行委員や班長が機転を利かして仲間に伝達してくれたおかげで、大きなトラブルになることはありませんでした。

仲間の身体を支え、心を支え、行動を支える。そんなことが自然に、さりげなくできる力が備わっている人がたくさんいる学年だと感じました。自分の何気ない行動が実は仲間を助けていたり、知らず知らずのうちに仲間に助けられていたり。そんなことに気づくことができた修学旅行だったのではないのでしょうか。

(文責 臼井)